

平成 26 年度 ITS セミナーが 開催された

ITS・新道路創生本部 中村 徹、黒沢 由佳

REPORT

1 はじめに

(一財)道路新産業開発機構 (HIDO) では、毎年、民間企業等の ITS に関わる人材育成支援、人材交流のため、セミナーを実施しています。平成 26 年度は、12 月 4 日の午後 1 時半～午後 5 時に開催いたしました。今回のテーマは、「ITS の最新動向」として、国土交通省、大学そして民間企業の方を講師として招き、講演して頂きました。

日時：平成 26 年 12 月 4 日 (木)

場所：HIDO 会議室

対象：ITS に携わっている中堅職員

参加者：46 名

【講義】

① 『道路行政を巡る動向と ETC2.0 展開に向けて』

国土交通省 道路局道路交通管理課

ITS 推進室 室長

山本 巧 氏

② 『KUSANONE ITS』

高知工科大学 地域連携機構

地域 ITS 社会研究室／地域公共交通研究室

特任教授

熊谷 靖彦 氏

③ 『トヨタの高度運転支援技術開発』

トヨタ自動車(株)

BR 高度知能化運転支援開発室 主査

遠藤 徳和 氏

④ 『道路課金と標準化動向』

三菱重工業 (株)

ICT ソリューション本部 制御技術部 顧問

野口 直志 氏

2 『道路行政を巡る動向と ETC2.0 展開に向けて』

道路を賢く使う取り組み、ETC2.0 サービス、ビッグデータの活用そして ETC2.0 の普及・展開に向けた今後の対応についてお話しいただきました。

日本の高速道路の渋滞や交通事故の状況と賢く使う取り組み事例、ETC2.0 のサービス内容と ETC2.0 の導入スケジュール (案)、ビッグデータの活用について紹介していただきました。

ETC2.0 のサービスでは、大型車の走行経路把握、物流支援などの大型車両に対するサービス内容について詳細にお話をいただきました。

質疑応答では、「今後どのようなサービスが実施予定もしくは検討しているのか」という質問に対して、「今は“これをやる”というサービスは言えないが、渋滞時に他の車線へ誘導させるサービスについて考えている」という回答がありました。



山本氏による講演

3 『KUSANONE ITS』

「KUSANONE ITS」(草の根 ITS) という予算をあまり掛けずに、実現できる ITS についてお話しをいただきました。

ITS は一般的に高価、英語、運用コストが掛かる割にメリットが少ないなどのこれまでの ITS の問題を挙げ、地域密着型で利用者のニーズを目指し、ハイテク技術ではなくローテク技術やハイテキ(適)技術についてお話しをいただきました。

KUSANONE ITS は人口減、収入減、高齢化が進む地方でも実現可能な ITS を目指し、高知県で実際に行われた取り組み、導入システムについてお話しをいただきました。



熊谷氏による講演

4 『トヨタの高度運転支援技術開発』

昨年度のアンケートより、自動運転について継続的に ITS セミナーで取り上げて欲しいという意見が多かったため、自動運転について、トヨタ自動車の遠藤様に「トヨタ自動車の安全運転支援技術」についてお話しをいただきました。

トヨタ自動車の安全運転システムは、高級車だけでなく大衆車まで装備し、安全運転システム以外では車車間通信やヘッドライトのロービームとハイビームを自動で切り替えるシステムも搭載する予定というお話しをいただきました。

自動運転技術は、安全・安心や高齢者の運転支援として研究しています。自動運転技術を進めていても「Fun To Drive」は忘れないように技術開発をしています。

今後の技術としては、①情報の生成(3D 地図や自動運転の地図)、②情報の共有(自車で生成した地図などの情報が他車と共有できるように)、③情報のセキュリティ(車



遠藤氏による講演

の情報が盗まれないように、ハッキングから守る技術) などが必要になるというお話しをいただきました。

質疑応答では、「路側に求めるものは？」という質問に対して、「自動運転は車単独の技術と思われがちですが、車単独の自動運転技術には限界があり、路側に求めるものは沢山あります。特に合流を自車だけの技術で自動化するのは困難なので、路側からの後方情報(後方車両の位置や何台走行しているかなどの情報)が必要です」という回答がありました。

5 『道路課金と標準化動向』

昨年度のアンケートより、道路課金の最新情報を聴講したいとの意見が自動運転の次に多かったため、道路課金の国際標準化会議に参加し、世界の道路課金の情報に詳しい



野口氏による講演

三菱重工の野口氏に「道路課金と標準化動向」についてお話しをいただきました。

道路課金の仕組み、米国・欧州の道路課金動向、道路課金の標準化動向、日本が提案した国際標準化項目、日本から国際標準案として提案予定の項目についてお話しをいただきました。

6 セミナー後のアンケート結果

(1) セミナー全体の感想

セミナー参加者にアンケート調査を行いました。セミナー全体の印象としては、約81%の方から「良かった」と回答がありました。その他、自由意見として;

- ① 自動車会社の最新情報や普段聞けない内容を聞くことが出来て良かった。
- ② 国交省、地方の ITS や企業の最新情報を聞くことができて良かった。
- ③ 官、学、民の幅広い情報を得ることが出来た。

(2) 開催時期について

開催時期は、12月は避けて欲しいという意見と11月下旬～12月上旬という意見が寄せられました。

来年度は11月下旬に開催できるようにいたします。

(3) 今後の要望

ITS セミナーで取り上げて欲しい講義内容について下記のような意見が寄せられました。

- ①ビッグデータの活用（国内外のビジネス）
- ②米国、欧州、アジアや途上国の ITS 動向

- ③日本の ITS 施策動向（ETC2.0 を含）
- ④国内外の自動運転技術動向
- ⑤協調システム
- ⑥道路会社のサービスの取り組み

7 おわりに

今回のセミナーは、ETC2.0、地域に根ざした ITS、自動運転そして道路課金など地域から国、国際、将来の ITS について講演していただきました。

昨年度から国内外で自動運転に関する技術検討が行われ、ITS の分野でも自動運転について注目されています。国内では ITS スポットサービスから ETC2.0 に名称が変わり、プローブ情報が新たな機能として加わり、今後の道路交通サービスが大きく変わり、道路利用者も何らかの優遇が受けられる事が分かりました。なかなか地域に浸透していかない ITS が KUSANONE ITS という観点から ITS が身近になることが分かりました。道路課金では、日本、アジア、米国や欧州の ETC 動向と ITS の中でビジネスモデルが確立している分野だと言うことが分かりました。

ITS セミナーの開催に関して、講師の皆様、関係者の皆様のご協力に、とても感謝しております。当機構では皆様から寄せられたご意見・ご要望を踏まえ、カリキュラムの充実をはかるとともに、引き続き ITS セミナー（講演）を通じて、ITS に関わる人材育成支援、人材交流の円滑化に努めて参りたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。



ITS セミナーの風景